

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2006年11月1日

38号

レダ開発7周年記念特集

1999年10月1日-2006年10月1日



パンタナール開拓7周年行事開催

二〇〇六年一〇月一日、快晴のレダの地で、パンタナール開拓7周年を記念して、中田所長はじめとする現地滞在八名と日本から駆けつけた飯野事務総長ら七名の一行が合流して、ささやかな七周年記念行事を行い、新たな7年の出発を決意しました。夫人代表四名を含む日本からの七名一行は、九月二十九日アスンシオンに到着、佐野現地財団理事に迎えられて打ち合わせをした後、翌日にはセスナ機でレダに向かいました。一〇月一日は、神山威会長を先頭に十四名一行が、一九九九年のレダ上陸をして本格的に開拓を出発した記念すべき日であるため、開拓現場のメンバーと支援部隊の代表が合流し、七年を振り返り、全ての活動の総括をし、新たな七年のプランを検討しました。また、十月三日には、工スペランサ村の六十名からの人々をはじめ、レダ及び近隣関係者百三十名を招待し、喜びのお祝いムードの中、記念講演会と牛をほふつて焼いたアサド昼食会が行われました。



レダ開発七年の軌跡



神山威会長を先頭に14名が1999年10月1日にレダに到着

開拓七周年を迎えて

(飯野事務総長挨拶)

当会は、会員の皆様の厚いご支援で、毎年インディヘナの人々が住む村をはじめ、近隣の村々に、教育支援活動を展開し続けてきましたが、大いに喜ばれ、歓迎されており、その効果は次第に根付いて来ています。

また、地球環境問題の一助としての植樹活動も着実に進められ、荒地に緑が増え、果樹園ではマンゴーやパイナップル等が豊作です。

エコ・ツアーも五回行われ、大自然の恵みに感動し、参加者はいずれも新たな視点での人生を始めています。基地建設の基礎がこの七年で出来ましたので、これら七年は、これら従来の活動を継続発展させると共に、新たに換金事業としてのバイオ・エネルギーの開発と生産に向けて取組んでいきます。

中田所長が陣頭指揮をとつて、ヒマワリ、タルタゴ(ヒマ)、サトウキビなどの実験栽培を繰り返し、何が一番レダの地に合うか、どのように栽培し、製品化を進めるか、そのための設備や技術をどうするか、資金的裏づけと採算性はどうなのか、等あらゆる観点から検討を続けています。

これによる現地での経済的基盤が改善されれば、将来的に移住を含めた未来が見えてくることでしょう。長期滞在奉仕の若者や、農業中心にシニアの方々の積極参加も期待します。

今後も共に「世界の為に生きる」公的心情の輪を拡大させて行きましょう。

皆様の更なる継続的厚いご支援を心からお願い申し上げると共に、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



1999年10月開拓初期のレダ



現地労働者とともに

開拓期の生活（川にて洗濯、行水、食器洗い）

開拓の時代

レダの位置するパンタナールは地球上で最も原始的で、かつ生物学上、最も豊かな環境を保持している地域である。世界最大の淡水の湿地帯として紹介される。ブラジル、ボリビア、パラグアイにまたがり、日本の本州と同じ大きさである。生態系の宝庫であり、その中に六百五十種類の鳥類、八十種類の哺乳類、五十種類の爬虫類が生息している。

レダはパラグアイ国に位置し、パラグアイ河上流に位置している。以前は牧場として牛を放牧していた場所で八万ヘクター（四十km²二十km）の大きさです。度々、パラグアイ河の洪水で被害を受け、牧場として牛を飼うことを見断し、荒れるに任せていきました。そのため、人間として通常の生活が出来る基本的なインフラが何も整つておりませんでした。電気も無く、水は河から取り、勿論、電話も無い状態でした。また、他の町、村との間に道路網も無く、交通機関は舟が頼りでした。一九九九年十月より開拓が始まり、雨漏りのする家屋の修復から始まりました。

昼夜と無く攻撃される蚊に悩ませられながら、時には獰猛なジャガーやが近くに出没し、夜中に飼っている羊を襲い、眠れる夜を過ごす事もありました。

四十度を超す炎天下、汗は止めども無く流れ、体が異常に熱を帯び、体を冷やす為、度々、衣服を着たまま河に入つて、冷やさなくてはならない程度でした。初めは河で洗面し、食器を洗い、河からの茶色の水を煮沸殺菌し飲料水を作り、トイレも藪の中にある簡易トイレで何時、毒蛇に襲われるか心配するほどでした。

建設は二十km先の隣村のインディヒナの労働者を雇用しながら共に始まりました。

浄水所、牧場整備、道路建設、電気配線工事、排水設備等のインフラの確立と国際研修センター、エコツアーゲストハウス建設、地域安全の為の警察所、海軍警備所等の建設。



浄水場、トラックターにて整地、道路建設。



国際研修センター

川辺のゲストハウス



機材格納庫

ゲストハウス 1 .



レダ海軍警備所

レダ警察所

植樹活動（牧場跡地に森を再生し、地球温暖化防止を！！）



ハチドリ、オニオオハシ、インコ等の鳥が集まり、実がなり花が咲き養蜂も始まる。

09.03

植樹園

二〇〇一年四月に第一回の植樹を実施し、今年で六年目になります。土地によく合うイペー、チバト、ジャカランドなどをメインに、マンゴー、グレープフルーツ、グアバなどの果樹を混植し、一五ヘクタールを緑化しました。

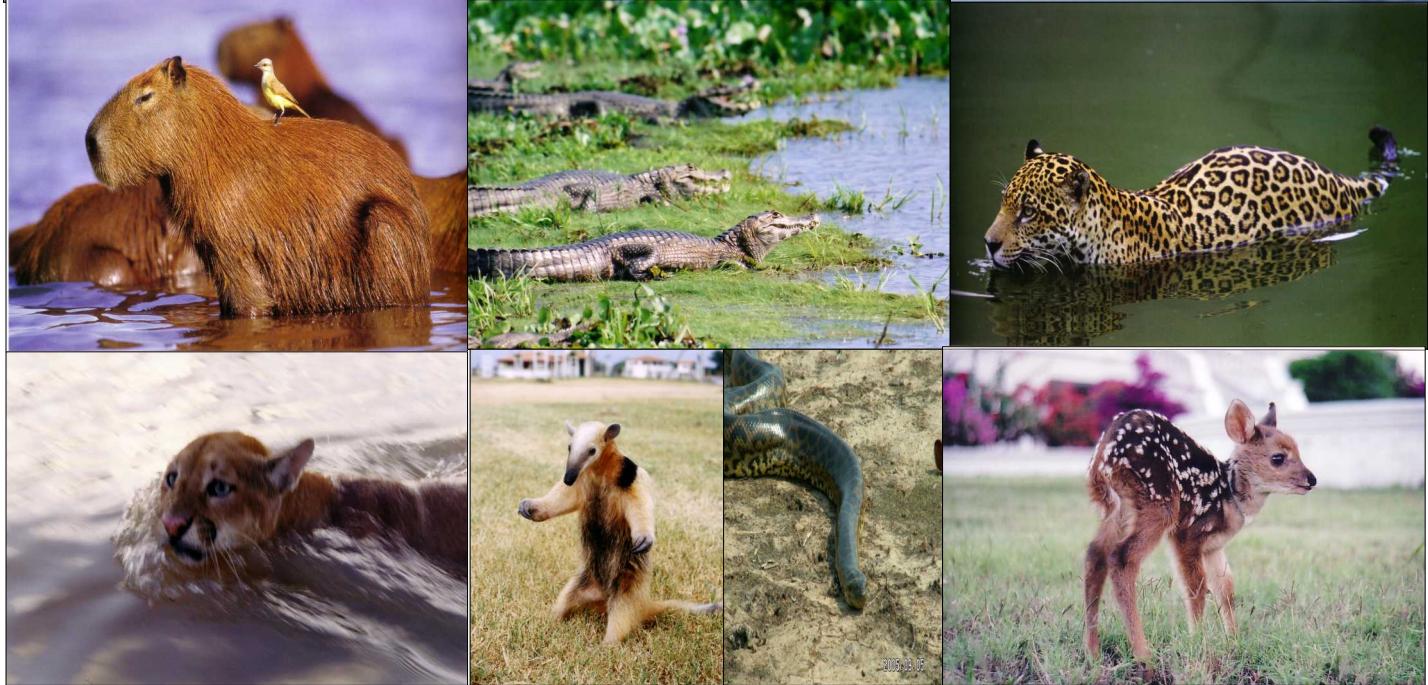
六年前に植えた苗は平均樹高四m～五mに、ユーカリのように特に成長の早い木は九m～十mに成長しています。またマンゴーは三年目に結実します。

この植樹プロジェクトは、二十一～四十年をかけて牧場跡地を森林化し、CO₂の固定と野生生物の保護を目的としたもので、南北米福地開発協会の協力によって実現しました。

開始後三年目ほどで緑が目立ち始めると、インコやオニオオハシなど、ます多くの野鳥が飛来するようになりました。三mにもならない幼木に巣をかける小鳥もいます。さらに四年目くらいからアメリカダチヨウが植樹園内を餌を探して歩く姿が毎日のように観察できるようになりました。アルマジロ、コアリクイ、イグアナも西側の森からたまに出てきます。

規模の大小にかかわらず、地道な努力を重ねることで失われた生態系を少しづつ確実に回復することができることを体験したことは、この七年間の大きな収穫でした。今後はこのエリアを本格的なエコツアーや聖域として育っていくことも十分可能だと思います。

パンタナールエコツアーの聖域、レダ。



レダ敷地内に生息する動物達（カピバラ、ワニ、ジャガーア、アメリカライオン、小アリクイ、アナコンダ、子鹿）



国際協力青年奉仕隊、インディヒナの村に学校建設

(2000年-2005年)



レダでの現在の活動と今後の方針



人間と自然が調和できる換金性のある産業を興す。主に自活できる農業を確立し、家族移住できる基盤を造成する。特にヒマワリ、ヒマ、ジェトロファ等でバイオエナジーの製造を目指す。

南北米福地開発協会日本事務局の歩み



レダ開発が始まって以来、日本事務局では3ヶ月一度の環境セミナーを行なうとともに1泊2日の研修会を定期的に行ってまいりました。それに加え、講演会の開催、エコツアーの企画をし、多くの方に人間と自然の共生の重要性を啓蒙し、毎月会員の皆様にはパンタナル通信をお送りしてきました。今まで当会の会員の皆様の尊い支援金は人間と自然が共生する環境モデルを作ることを目指すレダ開発とレダ近郊のインディヒナの村の教育向上のために送ってきました。今後も継続し、活動を続けていきますのでご支援、ご鞭撻下さるようお願いいたします。（柴沼邦彦事務局長）

会費納入	電話	〇四四一八二九一二八二一	南北米福地開発協会 事務局
Fax			〒二二三一〇〇〇一
郵便口座		八二九一二八二〇	神奈川県川崎市高津区 溝口三一十一十五 岩崎ビル四F
代表	柴沼邦彦	一〇一八〇一七七六八〇四七一	

二〇〇六年度 環境セミナー
第四回 午前一〇時～午後五時まで
場所：南北米福地開発協会事務局
費用：三千円（昼食付き）
内容：地球温暖化と植樹の重要性、
レダ開発について

来年からは再び国際協力青年
ボランティアを募集します。
ご期待ください。

